

## 好奇心を原動力として

SSH 推進部長 熊谷 洋介

みなさんが知っての通り、今年度より新たに SSH 事業Ⅱ期の指定を文部科学省から5年間受けることになりました。SSH の指定にはいくつか種類があるのですが、本校は「基礎枠」（自然科学を主とする先進的な理数系教育に関する研究開発を実施し、将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成を目指す）に該当します。今年度、この基礎枠に申請した高等学校は全国で34校、うち採択を受けたのは15校です。厳しい選考をくぐり抜けての採択となりましたが、この申請に向けて、学校全体で「本校のSSH事業をどのようにデザインするか」という話し合いを多く持ちました。もちろんみなさんが巣立っていく社会からの要請もありますが、みなさんと常日頃関わっている先生方の想いを根本として申請書は書かれました。西高の先生方の想いをまとめると、このSSH事業を通してこのような力や人間性を身につけてほしいと考えています。

- 一. あくなき探究心と豊かな人間性
- 一. 困難や失敗を恐れずに自分を試す力
- 一. 協働して新しい価値を創造する力
- 一. 自分の考えを世界に発信する力

これらの力や人間性を身につける上で重要な資質の一つが「好奇心」です。本校では「興味関心に応じた」探究活動を展開しています。その理由は簡単で、みなさんが「おもしろい」と思うことに取り組んでほしいし、それらの経験がみなさんのキャリアにつながっていくと考えるからです。Ⅰ期の取組を土台にⅡ期のSSH事業をよりよいものにするために、「好奇心の覚醒」を大きな柱にしたいと考えています。

先日、このようなネット記事を見ました。

興味関心の限界は、知識・情報量の限界  
知識・情報量の限界は、思考の限界  
思考の限界は、行動の限界  
行動の限界は、成果の限界

私の学生時代とは違い、世は情報社会。調べようと思えば、自分の興味関心をとことん深掘りすることができる時代です。ただ、裏を返せば、興味関心の欠如は自分の知識・情報量を狭め、考え方や行動する範囲も狭めてしまいかねないとも言えるかもしれません。みなさんの好奇心を原動力として、Ⅱ期のSSH事業を展開したいと考えています。その好奇心を覚醒するようなプログラムも色々と考えていきます。好奇心を持つことで普段の授業の見え方も大きく変化することでしょう。みなさんの意識改革に期待しています。

### 1年生

1年生はプリマ探究（はじめての探究活動）として、好奇心を呼び覚ますためにさまざまな取り組みを行っていきます。まずは、校内探検でなんとなく気になったものを取りあえず写真に撮り、その内容についてグループで話し合い、他者の視点を知る経験をしました（5月9日（金））。この内容を次は、実際の県立の博物館（2か所）で実施します。見ようとしてじっくり見たものから感じた疑問を、言語化し伝える経験を繰り返して、課題発見力を養います。



### 2年生

本格的に探究活動が始まり、これから探究活動をどのように進めていくのかを話し合っています。探究したいテーマごとにチームを組んでいますが、より具体的で新規性のある課題の設定のために、ブレインストーミングを行い、リサーチクエスションを作成しました。また、自分たちが探究したいテーマの先行研究を探し、新規性の確認や新たな課題の設定など先人の知識をよく読み研究に活用していきます。



### 3年生

普通科が2年生の時に作成した課題研究の成果をまとめたポスターを使用して、英語で発表会を行いました。1度日本語で発表を行っていますが、専門性の高い言葉は英語にしたときに伝わりにくくなってしまったり、日本語発表の時とは違った点で気を付けることが多かったのではないかと思います。発表後は聞き手からの評価だけでなく、自己評価を通してメタ認知力の向上に努めました。



### SSH 校外学習

#### ひとはく探検

令和7年5月21日（水）、80回生（1年生7クラス）が兵庫県立人と自然の博物館に「ひとはく探検」に行きました。今年度、SSH基礎枠Ⅱ期の採択を受け、「好奇心の覚醒」を目的とした新たな取り組みへの挑戦です。探究活動で最も難しいとされている「課題発見力」を養うために、「気づき」を常に得る体験を繰り返し実施していきます。これまで5日間実施していた5月考査を、1年生のみ4日間で計画し、考査翌日に実施しました。今回の実施に際して、日本科学未来館より小林様、JSTより村上様、黒田様が視察に来てくださいました。

博物館に到着後すぐに、田中公教主任研究員から「丹波の恐竜 ～約1億1000万年前の生命たち～」、竹中敏浩特任研究員から「博物館展示と探究活動について」の講義を受け、解像度を高めた後に、「ひとはく探検」に出かけました。午後は、グループワークで各自の探検内容についての報告・意見交換をし合い、その後一人で振り返って、1枚の「探検記録」にまとめました。それぞれ、その時間に取り組むべき内容に、真剣に向き合っている姿を頼もしく感じます。

フラットな視点で感じた疑問を、言語化し、伝える経験を繰り返し続けていきましょう。

